

別紙3 点検表記録様式
橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 47' 52.40"	
				経度	135° 21' 01.76"	
アピア橋 (フリガナ)アピアバシ	市道3303号線	兵庫県宝塚市逆瀬川2丁目				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
兵庫県宝塚市	2016.10.24	県道明石神戸宝塚線	有	一般道	その他	電気・電話線多数

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	(株)パスコ	点検責任者	浮田 裕史
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かるように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	ひびわれ	写-1 第5径間主桁01端部			
	横桁						
	床版	Ⅱ	遊離石灰	写-2 第3径間床版02起点			
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写-3 P1橋脚梁部左側			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	
(判定区分)	(所見等)			(再判定実施年月日)	
Ⅲ	主桁の桁かかり部にひびわれが生じている。早期対策が望ましい。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点	
1987年	117m	6.0m		
				終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】		上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】	
写真-1 第5径間 主桁01 端部		写真-2 第3径間 床板02 起点付近	
支承部【判定区分: 】		下部構造【判定区分: Ⅱ】	
		写真-3 第2径間 P1橋脚 梁部左側面	

別紙3 点検表記録様式

様式1(その1)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 48' 56"	
				経度	135° 21' 22"	
売布橋 (フリガナ) メフバシ	R954	宝塚市売布ガ丘				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
兵庫県宝塚市	2015.3.17	道路(高速道路)		一般道		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者		(株)エイテック		点検責任者		(株)エイテック	
点検時に記録				措置後に記録							
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類(Ⅱ)以上 の場合に記載)	備考(写真番号、位置等 が分かるように記載)		措置後の 判定区分		変状の種類		措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅲ	ひびわれ、その他(植生繁茂)	写真1,2							
	横桁	－									
	床版	Ⅱ	その他(植生繁茂)	写真1							
下部構造		Ⅱ	その他(伸縮装置からの漏水)	写真3							
支承部		Ⅰ									
その他		Ⅱ	その他(舗装ひびわれ、舗装剥離、地覆浮き)	写真4,5,6							

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録				措置後に記録	
(判定区分)	変状の種類(Ⅱ)以上 の場合に記載)	備考(写真番号、位置等 が分かるように記載)	措置後の 判定区分	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	(所見等)主桁の橋脚P1周辺に開口幅の大きい2方向ひびわれが広範囲に見られた。損傷が進行すると著しく耐荷力に影響が出る可能性が考えられる。また舗装に開口幅の大きい2方向ひびわれが橋面全体に見られた。下面への漏水跡は床版に4カ所見られた程度であったが、将来的に路面のひびわれから主桁、床版等に雨水が浸透し部材の劣化を進行させることが考えられる。しかし伸縮装置の下部では排水機能の劣化により下部工への漏水が見られ、周囲の部材の劣化を促進させることが考えられる。このような状況から橋梁全体の劣化が加速する可能性が考えられるため早期に補修等の対応が必要かと思われる。加えて植生繁茂が広範囲に見られた。第三者への影響が考えられる。				

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970年	50.10m	10.21m
← 起点  → 終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】	上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】
写真1 	写真2 
下部構造【判定区分: Ⅱ】	その他(路面)【判定区分: Ⅱ】
写真3 	写真4 

別紙3 点検表記録様式
橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 46' 27.57"	
				経度	135° 21' 25.60"	
鶴野橋 (フリガナ)ツルノバシ	市道10号線	兵庫県宝塚市仁川北3丁目				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
兵庫県宝塚市	2016.08.31	河川(仁川)	有	一般道	その他	水道管1本

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	(株)パスコ	点検責任者	浮田 裕史
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	ひびわれ	写-1 第2径間 主桁14 中央			
	横桁						
	床版	Ⅱ	遊離石灰	写-2 第1径間 床版14 起点			
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	写-3 第1径間 A1橋台			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	PCホロー桁下面にひびわれが発生している。早期対策が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1983年	29m	10.20m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】		上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】	
写真-1 第2径間 主桁14 支間中央		写真-2 第1径間 床版14 起点付近	
支承部【判定区分: Ⅰ】		下部構造【判定区分: Ⅱ】	
		写真-3 第1径間 A1橋台 中央付近	

別紙3 点検表記録様式
橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	34° 48' 07.74"	135° 21' 11.10"
中州橋 (フリガナ)ナカスバシ	市道月地線	兵庫県宝塚市末広町				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
兵庫県宝塚市	2016.07.27	河川(逆瀬川)	有	一般道	その他	なし

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	(株)パスコ	点検責任者	浮田 裕史
点検時に記録				措置後に記録			
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅲ	鉄筋露出	写-1第2径間 主桁04終点			
	横桁	Ⅲ	鉄筋露出	写-2第2径間 横桁03			
	床版	Ⅱ	鉄筋露出	写-3第1径間 床版04終点			
下部構造	Ⅰ						
支承部	Ⅲ	腐食	写-4 第2径間 支承201				
その他	Ⅰ						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				
点検時に記録			措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	コンクリート部材に鉄筋露出が、鋼部材に腐食が発生している。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	早期対策が望ましい。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1954年	19m	5.10m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

- 部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
- 写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】		上部構造(横桁)【判定区分: Ⅲ】	
写真-1 第2径間 主桁04 終点端部		写真-2 第2径間 横桁03 G3-G4-G5間	
上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】		支承部【判定区分: Ⅲ】	
写真-3 第1径間 床版04 終点端部		写真-4 第2径間 支承201	

別紙3 点検表記録様式
橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 47' 31.76"	
				経度	135° 20' 38.72"	
西山橋 (フリガナ)ニシヤマバシ	市道918号線	兵庫県宝塚市千種4丁目				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
兵庫県宝塚市	2016.08.09	河川(逆瀬川)	有	一般道	その他	なし

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	(株)パスコ	点検責任者	浮田 裕史
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かるように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	鉄筋露出	写-1第2径間 主桁05終点			
	横桁	Ⅱ	遊離石灰	写-2第2径間 横桁03			
	床版	Ⅱ	ひびわれ遊離石灰・鉄筋露出	写-3第2径間 床版04			
下部構造		Ⅲ	ひびわれ	写-4第2径間A2橋台堅壁			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)			措置後に記録
点検時に記録			
(判定区分) Ⅲ	(所見等) 主桁にひびわれ、遊離石灰、うき、鉄筋露出があり、補修箇所も再劣化している。早期対策が望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1954年	20m	7.09m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】		上部構造(横桁)【判定区分: Ⅱ】	
写真-1 第2径間 主桁05 終点		写真-2 第2径間 横桁03	
上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】		下部構造【判定区分: Ⅲ】	
写真-3 第2径間 床版04		写真-4 A2橋台 縦壁	

別紙3 点検表記録様式
橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 47' 51.59"	
				経度	135° 20' 59.58"	
菜切橋 (フリガナ)ナギリバシ	市道野上通り線	兵庫県宝塚市逆瀬川2丁目				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
兵庫県宝塚市	2016.08.09	河川(逆瀬川)	有	一般道	その他	電線管(信号機用)1本

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	(株)パスコ	点検責任者	浮田 裕史
点検時に記録				措置後に記録			
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に 記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅲ	ひびわれ	写-1 第1径間 主桁23起点			
	横桁						
	床版	Ⅱ	遊離石灰	写-2 第2径間床版22 終点			
下部構造	Ⅲ	鉄筋露出	写-3 第2径間P1橋脚梁下				
支承部							
その他	Ⅰ						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)		点検時に記録	措置後に記録
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	主桁下面にひびわれが発生している。早期対策が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1964年	19m	16.40m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】		上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】	
写真-1 第1径間 主桁23 起点付近 		写真-2 第2径間 床版22 終点付近 	
支承部【判定区分: Ⅲ】		下部構造【判定区分: Ⅲ】	
		写真-3 第2径間 P1橋脚 梁下面 下流付近 	

別紙3 点検表記録様式
橋梁名・所在地・管理者名等

様式1(その1)

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 48' 44.01"		
				経度	135° 22' 14.62"		
天王寺橋 (フリガナ)テンノウジバシ	市道宝塚長尾線	兵庫県宝塚市三笠町					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
兵庫県宝塚市	2016.07.12	河川(天王寺川)	有	一般道	一次	なし	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	(株)パスコ	点検責任者	浮田 裕史
点検時に記録				措置後に記録			
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅱ	鉄筋露出PC定着異常	写-1 主桁16支間中央			
	横桁	Ⅱ	遊離石灰PC定着異常	写-3 横桁01上流定着部			
	床版	Ⅲ	遊離石灰	写-2 床版01 終点付近			
下部構造	Ⅰ						
支承部	Ⅰ						
その他	Ⅰ						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)			
点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	横桁、床版に遊離石灰が生じている。早期対策が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1968年	17m	11.76m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】		上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】	
写真-1 主桁16 支間中央付近 		写真-2 床版01 終点付近 	
上部構造(横桁)【判定区分: Ⅱ】		下部構造【判定区分: Ⅰ】	
写真-3 横桁01 上流側 PC定着部 			